

優秀賞

# 運行管理者としての役割と使命

(東北) シンセイプロロジスティクス (株)

円谷 聡美

今春の3月17日18:30分頃、入浴中だった私に上司から、「ドライバーのKさんが会社の駐車場で体調が悪くなり、自分で救急車を呼んだみたいで、至急状況を確認してほしい。」との連絡があった。電話を切つてすぐに、Kさんから着信があったことに気づいた。

まず私は消防署に電話をかけ、救急車がどこに向かうのかを確認しようとしたが、まだ搬送先が決まらず駐車場にいると聞き、すぐさま会社に向かった。そこには救急車がまだ停まっており、Kさんの息子さんもその近くにいた。そこで息子さんから話を聞くことができ、様々な、なぜ？を確認することができた。

Kさんは日曜日にも関わらず、担当車両のマーカールンプを自分の好みの色に変更しようとしていて、急に気持ちが悪くなり嘔吐、自ら救急車を手配し、息子さんや私に電話をくれたそうだ。

私は不意に、2月に脳内出血で亡くした祖母を思いだし、「Kさんは無事でいてくれ」と切に願った。その後ようやく搬送先が決まり、到着した病院では緊急手術が11時ごろからやっと始まった。「手術は1時間ほどで終わる」と言われていたので、終わるのをそのまま病院で待っていたが、12:30分になっても終わらず、看護師さんから「会社の方はお帰り下さい」と言われたため、仕方なく帰宅することにした。

手術から5日後、私の願いも叶わず、「Kさんは家族に看取られて息を引き取ったそうだ」と上司に聞いた。金曜日の午後2時ごろ、いつもの冗談話をして元気に帰社したKさんの姿が、私の中での彼の最期の姿となった。帰るときにはあんなに元気だったKさん。電話を取れなかった事が心残りではない。「もし私が早く連絡を受けていれば、最悪の事態は免れたのでは・・・」と思うと、辛い気持ちでいっぱいになる。

日本のトラックドライバーの死因は、脳血管疾患・心臓疾患による過労死が主な死因と言われており、高血圧症：肥満：糖尿病など過労死の原因として「偏食：運動不足」と指摘する方もいる。

当社では現在、年に2回、全ドライバーに健康診断を受けさせている。そして再検査を受けたドライバーは、医師から再指導を徹底し、病気の早期発見に努めている。今回のように急に体調が悪化する健康起因による事故がよく報道されていますが、ドライバーが長く勤められるように健康管理をするのも私、運行管理者の使命と認識し、点呼時の日々の体調管理を怠らず徹底し、全従業員のみならず、その家族の生活を守るよう意識向上に努め、一人一人に伝わるように労いの言葉を掛け合いながら、「事故防止は健康管理から」をモットーに管理者としての役割をこれからも果たしていきます。